

1. 執筆形式

- (1) 原稿は以下に示すものを作成する。
 - 1) 和文抄録及び英文抄録
 - 2) 本文（引用文献を含む）
 - 3) 図（写真を含む）
 - 4) 表
- (2) 用紙は A4 判を使用する（図表も）。本文は縦置き横書きで上下左右にそれぞれ 4 cm の余白を取る。1 枚あたり 28 行を標準とする。フォントサイズ 12 ポイントで印字し，各行は行頭をそろえる。字体は Times New Roman が望ましい。この場合，本文の刷り上り 1 ページは，原稿約 3 枚に相当する。
- (3) 本文の下段余白の中央にページ番号を，左又は右余白には行数 5, 10, 15, 20, 25 の数字を記入する。
- (4) ワード，エクセル，パワーポイント等により原稿を作成し，web システム上の手順に従って PDF ファイルを作成した後，PDF ファイルの内容を確認のうえ，送信して投稿とする。

2. 論文標題

- (1) 標題は簡潔に内容を具体的に表すようにつける。
- (2) ランニングタイトル（短縮標題）は 70 字以内（スペースを含む）につける。なお，70 字以内であれば標題と同じでよい。
- (3) 英文標題は，冠詞・接続詞・前置詞以外の頭文字を大文字とする。

3. 本文の書き方

- (1) 投稿論文は原則として，INTRODUCTION, MATERIALS and METHODS, RESULTS (RESULTS and DISCUSSION としてもよい), DISCUSSION, CONCLUSION, ACKNOWLEDGEMENT, REFERENCES などの区分を設けて見出しを行の中央に記載する。ただし謝辞には見出しをつけない。資料，ノートについては上記の区分に従わなくてもよい。
- (2) 見出しは原則として次のようにする。
 - 大見出し INTRODUCTION（行中央）
 - 中見出し Assay（行左寄せ）
 - 小見出し 1. Temperature（行左寄せ）大見出しは太ゴシック体，中見出しは太 Times New Roman，小見出しは Times New Roman，さらに小さい見出しを必要とする場合には Times New Roman で 3 文字分空けて適宜符号を用いて記す。いずれの場合も本文は改行とし，3 文字分あけて記す。
- (3) 単位は原則として国際単位 (SI) とし，必要があれば記号一覧表をつける。単位の記号は，50 kg, 100 mm, 30 deg のように数値と単位の間半角スペースを入れる。ただし，%と℃にはスペースを入れない。

- (4) 文章中の元素名及び化合物名は原則として文部省・日本化学会著「学術用語集化学編」の英名で書く。（例：HCOOH は formic acid, Cl₂ は dichlorine とし，MeOH, HO-などは用いない。）
- (5) 数字は原則としてアラビア数字とする（例：Table 1, Fig. 2, 30 mm, 4 g など）。
- (6) 右揃えは行わない。
- (7) 論文の書き出しや改行の場合は 3 文字分下げる。
- (8) 文章中の数式は $\frac{a+b}{c+d}$ のように 2 行にするのは避け， $(a+b)/(c+d)$ のようにする。化学構造式の複雑なものには図に準じて扱う。

4. 図及び表

- (1) 図（写真を含む）と表は分け，それぞれを 1 ファイルになるべくつめて作成するのが望ましい。ファイル名には，半角英数を用いることが望ましい。
- (2) 図の場合は図の下に，表の場合は表の上にタイトルを付す。Fig. 1 あるいは Table 1 のタイトルは，簡潔に，内容を総括的に表現したものにする。
- (3) 特に必要でない限り，同一データを図，表で重複させない。
- (4) 図表の挿入位置は，本文中に図表の文字を赤字にして示す。
- (5) 図は白黒を原則とする。サイズは仕上がり原寸で，片段に収める場合は横 8 cm 以内，両段にまたがる場合は横 16 cm 以内とする。カラー印刷が必要な場合は，その旨を明記する。
- (6) 写真は白黒写真を用いる。顕微鏡写真などの倍率は写真の一部に縮尺で明示する。カラー印刷が必要な場合は，その旨を明記する。
- (7) 図及び写真について，著者が希望した場合もしくは編集委員会が掲載上不適当と認めた場合には，印刷所においてトレース等を行う。費用は実費とする。複雑な化学構造式などもこれに準ずる。

5. 利益相反

著者は，利益相反に関する申告をしなければならない。利益相反は引用文献の直前に記す。

6. 引用文献の書き方

- (1) 本文中の引用文献の書き方は次のとおりとする。引用文献の著者名と年号を（ ）に入れる。著者名は姓のみとし，連名の場合 2 名まではそのまま記し，3 名以上の場合は筆頭者のみ記す。同年に 2 報以上ある場合は a, b … と表記する。引用文献の欄には筆頭著者の姓のアルファベット順に記す。

- (2) 引用文献は本文の最後に下記のようにまとめて記す。
- 1) 雑誌の場合：〈著者名全員を，で区切る〉〈西暦発行年 (XXXX)〉，〈論文タイトル〉，〈雑誌名 (イタリック体)〉，〈巻 (太字) (号)〉，〈引用開始頁-終了頁 000-000〉
英文誌名は Chem. Abs. に準拠した略称で示す。(http://cassi.cas.org/search.jsp)
 - 2) 単行本の場合：〈著者名全員を，で区切る〉〈西暦発行年 (XXXX)〉，〈章のタイトル〉，〈“書名 (イタリック体)”〉，〈編集者名〉，〈発行所〉，〈発行地〉，〈引用開始頁-終了頁 pp. 000-000〉
 - 3) 特許の場合：〈特許権者又は出願者名〉〈登録又は公開年月日 (XXXX/XX/XX)〉，〈題名〉，〈特許番号又は公開番号〉
 - 4) オンライン文献の場合：〈著者名〉〈更新年月日 (XXXX/XX/XX)〉，〈ウェブサイトの題名〉，〈ウェブサイトの URL〉，〈閲覧年月日 (XXXX/XX/XX)〉ただし，更新年月日は必須項目ではないが，画面に表示されている場合はなるべく記述すること。
- (3) 引用文献が日本語で書かれている場合には，タイトルの後に (in Japanese) を入れる。和文誌名は省略せずにイタリック体のローマ字綴りで示し，() に雑誌英名の略誌名を入れる。

文献記載例

- Davidson, P. (2008/5/28), Artificial throat, EP1639364B1
- Felix, R. and Aberham, H. F. (2019a), Modelling of food processes under uncertainty: Mechanistic 3D model of chicken meat roasting, *J. Food Eng.*, **262**, 49-59
- Felix, R., Jacob, L. S. and Aberham, H. F. (2019b), Prediction of thermal induced color changes of chicken breast meat during convective roasting: A combined mechanistic and kinetic modelling approach, *Food control*, **104**, 42-49
- Ikegaya, A. (2023), Effect of the addition of spreadable materials containing fats and oils on the physical properties of simulated food bolus of bread, *Nihon Chourikagaku Kaishi* (*J. Cookery Sci. Jpn.*), **56**(5), 199-208

- Manabe, M., Ishizaki, S., Yamagishi, U., Yoshioka, T. and Oginome, N. (2014), Retronasal odor of dried bonito stock induces umami taste and improves the palatability of saltiness. *J. Food Sci.*, **74**(9), S315-S321
- Matsumoto, F. (1988), “*Tabemono to Mizu*” (in Japanese), Kaseikyoikusha, Tokyo, pp. 78-80
- Ministry of Health, Labour and Welfare (2017/6/16), The sanitary management manual of large-scale cooking facilities, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzendu/0000168026.pdf> (in Japanese), (2022/3/1)
- Tsui, M. and Manabe, M. (2014), Distribution of Kanazawa's good luck sweets in Ishikawa prefecture (in Japanese), *Nihon Chourikagaku Kaishi* (*J. Cookery Sci. Jpn.*), **47**(3), 171-182
- Voragen, A. G. J., Pilnik, W., Thibault, J. F., Axelos, M. A. V. and Renard, C. M. G. C. (1995), Pectins, “*In Food polysaccharides and their applications*”, Stephen, A. M., Ed., Marcel Dekker, New York, pp. 287-339

付 則

1. 英語での投稿にあたっては，校閲記録を提出する。なお，その場合でも査読審査の結果，英文が不十分と判断された場合，又は校閲を受けることが困難な場合には，編集委員会において専門家に校閲を依頼するが，それに要する費用は著者の負担とする。
2. 訂正原稿が期限内に編集委員会に到着しない場合，あるいは著者が査読者の指摘以外に著しく内容を変更した場合に，返送原稿の受領日をもって新しい受付日とすることがある。
3. 初校は原則として著者校正とする。校正に際して，ミスプリント以外の訂正，変更は認めない。
4. 提出された原稿・写真等は返却しない。

(細則の改廃)

本細則の改廃は，委員会の議を経て理事会に報告する。